

Takashi AKIYAMA Poster Museum Nagaoka

2015-03-10

# APM news 121

## 秋山孝ポスター美術館 長岡

歴史的建造物・金庫扉と雁木のある美術館 (旧北越銀行宮内支店)



〒940-1106 新潟県長岡市宮内2-10-8  
TEL 0258-39-1233

長岡造形大学 特別講義 12月4日(木) pm 2:40~4:10/長岡造形大学104教室

講師: 秋山孝、澤田雅浩、御法川哲郎/参加者: 29名

## 地震ポスター支援プロジェクトについて



地震ポスター支援プロジェクトとして、ポスターの力を使い災害を忘れず記録することを目的にスタートしたこの活動は、今年で11年目となった。また今年には新潟中越地震が発生してちょうど10年にあたる年である。そこで、プロジェクトを立ち上げた秋山孝教授(多摩美術大学、APM館長)と新潟県中越地震後、復興に携わってこられた澤田雅浩准教授(長岡造形大学)にお越しいただき、御法川(長岡造形大学)が進行で「地震ポスター支援プロジェクトについて」というテーマで長岡造形大学にて特別講義を行った。

第1部「プロジェクトのこれまでのあらまし」では、秋山教授よりプロジェクトのこれまでの振り返っていただいた。始めは秋山教授一人であった。地震のポスターを作り始め、人が徐々に集まりグループが少しずつできてきた。それが11年目を迎え、参加者900名、B1のポスター作品が1400点集まった。秋山教授の一番の疑問は中越地震が起きたとき、デザイナーの自分たちは何の支援をしたらいいのかということだった。崖が崩れ、家が埋まっても自分たちには何もできない。デザイナーにできることは何かと考えると、日夜やっている仕事からできることを一つ一つやっていくということであった。それですら大変だけど、それをやろうと考えたと語った。

第2部「新潟県中越地震における復興活動」では、澤田准教授より、自然災害は起ること自体は防ぐことはできない、こればかりは運命であると語られた。しかしどんな被害を受けるかは、「外力としての自然災害の大きさ、プラスわれわれ自身の暮らし方(営み)」というところが大きく影響している。だから、防災・減災といったときは「地域の営み」の部分で対策することになるということである。また大地震で被害を受けるものは何かを考えると、建物が壊れる、ライフラインが寸断する、今までの生活ができなくなる、人が亡くなる、けがをする等、すぐつらいことが起る。マスコミだけを見ていると、目に見える被害だけしか認識しにくい。しかし被害を受けた人はそこで終わるわけではなく、生活再建に踏み出さなければならない。関心のある人がやるべきことは、被災地や被災者に手を差し伸べること、背中を押すこと、想い続けることだと語った。

第3部「鼎談」では、秋山教授が活動の成果について、1つはやはり続けているということであると語った。自分たちはポスターによって、先ほどの話にあった背中を押す、手を差し伸べる、想い続けるということの手助けをしているように感じたという。最後に澤田准教授より学生に向け、「みなさんはこの1枚のポスターで大きなメッセージを伝えることができるという可能性を信じて取り組んで欲しい」とコメントをいただいた。

このプロジェクトでは10年以上に渡ってポスターを作ってきた。今回のように異なった立場の人たちの情報が結びつくことで、これからよりプロジェクトの内容が深まっていくはずである。(御法川哲郎・長岡造形大学准教授)